

アワボスゲ	<i>Carex brownii</i> Tuck.	絶滅危惧 I 類
		カヤツリグサ科
選定理由	生育地が限定される上に、もともとの個体数が少なく、継続的な減少が予測されるため。	写真(清水英彦)
形態の特徴	根茎は短く叢生する。基部の鞘は濃赤紫色。頂小穂は雄性。雄鱗片は淡褐色、鋭頭長芒端。雌小穂は無柄または長柄があり(下部は柄が長い)、直立。雌鱗片は白色で中脈緑色、鋭頭長芒端、果胞と同長かより長い。果胞は3-4mm、無毛、有脈、口部は2歯、熟すと開出する。ヤワラスゲとは果胞の嘴が短い(嘴が果胞全体の1/3以下)点で異なる。花期は4-6月。	
生態的特徴	平地や低山の湿った草地や林縁に生育する多年草。	
分布状況	北海道～九州に分布し、岐阜県では県南中部に分布する。	
減少要因	開発に伴う草地の消失、山林伐採。	
保全対策	山林や草地の保全。	
特記事項		
参考文献	勝山輝男, 2005. 「ネイチャーガイド 日本のスゲ」. 文一総合出版, 東京. 星野卓二・正木智美・西本真理子, 2011. 「日本カヤツリグサ科植物図譜」. 平凡社, 東京.	

文責: 清水英彦